

## 俳句 大津俳句会

津波来る心配よそに阿波をどり

井上 昭子

拘りは甘みとなりて青りんご

岩崎由美子

庭の隅二本だけ咲きカンナかな

大塚喜久子

病みし身に酷なる日々の残暑かな

岡崎 浩子

夏休み何処かで子等の遊ぶ声

佐賀 久子

病葉のしづかに還る大地かな

佐澤 俊子

## 俳句 つのはな句会

とんぼ来て風と遊ぶや草の上

塚本 洋子

花野まで紙飛行機を誘導す

榮田しのぶ

兵馬俑のごと並ぶ城石ねこじやらし

村田 健二

スイマーの技芸鮮やかに水中花

志賀 孝子

意外な自分に出合ってしまったねこじやらし

田上 公代

レモン水 熱中症があふれてる

木庭 杏子

種を採る刻の欠片をつなぐため

上杉 波

穴惑い軌道をそれる国に棲む

矢嶋 道子

有明の月透明に 新聞来る

梅木トキエ

## 短歌 大津短歌会・野づかさ

新聞の特攻隊の川柳はその明るさに涙出にけり

山本 泰子

鳴神の激しき雨をともなえば大地は息をふきかえしたり

吉田 良子

賽を振りポン・チー・ロンと声をあげ老いてたのしき健康麻雀

荒木 麗子

おおあそのけむり北へとながるればあしたは雨か西ぞら見あぐ

田中 玲子

わが孫にうたいし歌を曾孫抱きうたえばやがて寝息たてそむ

豊岡ミツル

パリ・オリの閉会式もおわりけりラジオをつければ台風来ると

小平 善行

見わたせば風に吹かるる奥阿蘇の野に華やける芒しろがね

吉永 恵子

雀五羽エノコ口草をとびたてりタワーマンシヨン建設の地に

坂本 果子

橋脚の壁にゆらゆら水皺のひかり映れり夏のひざかり

鞍 岳志

楽しいよその一言に誘われていつの間にやら短歌を始む

高村 貴子